

第3章

コロナ禍の影響

第3章「コロナ禍の影響」では、「三重県子ども条例に基づく調査」や既存の調査の結果から、コロナ禍を経て、子どもの体験機会や心身の状況がどのように変化したのかを把握します。

コロナの影響によりできなかったことは「旅行に行くこと」の割合が最も高い

新型コロナウイルス感染症の影響により、やりたかったけれどできなかったことは、小学生、中学生、高校生ともに、「旅行に行くこと」の割合が最も高く、小学生は44.6%、中学生は57.7%、高校生は57.2%となっています。

次いで、小学生は「友だちと会話をしながら給食を食べること」(43.9%)、「友だちと遊ぶこと」(40.7%)、中学生は「友だちと遊ぶこと」(46.2%)、「友だちと会話をしながら給食を食べること」(41.7%)、高校生は「友だちと遊ぶこと」(54.0%)、「祭りや地域の行事に参加すること」(45.4%)となっています。

「友だちと遊ぶこと」、「祭りや地域の行事に参加すること」、「運動会や文化祭など、学校行事に参加すること」、「クラブ活動(部活動)に参加すること」については、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて割合が高くなっており、いずれも高校生は小学生より10ポイント以上高くなっています。

■ 図表86 あなたは、新型コロナウイルス感染症の影響により、やりたかったけれどできなかったことがありますか(複数回答)

	小学5年生	中学2年生	高校2年生
	R5年度	R5年度	R5年度
友だちと遊ぶこと	③40.7	②46.2	②54.0
異なる年齢の子どもと一緒に遊んだり、活動したりすること	6.6	10.0	6.4
山や森、川や海など、自然の中で遊ぶこと	12.5	14.1	7.1
家の人と一緒に遊んだり、スポーツをしたりすること	13.2	10.2	7.4
旅行に行くこと	①44.6	①57.7	①57.2
祭りや地域の行事に参加すること	29.3	40.3	③45.4
地域のスポーツクラブやサークルで活動すること	6.1	5.5	4.1
農業、漁業、伝統工芸など、地域の産業を体験すること	3.5	4.1	3.2
理科の実験、家庭科の実習、音楽の合奏や合唱などの授業を受けること	10.7	19.6	20.3
運動会や文化祭など、学校行事に参加すること	18.1	19.2	32.2
友だちと会話をしながら給食を食べること	②43.9	③41.7	38.7
クラブ活動(部活動)に参加すること	2.5	9.1	14.1
塾や習い事をする	7.4	3.3	1.6
その他	7.5	2.5	3.9
無回答	9.8	9.9	6.6

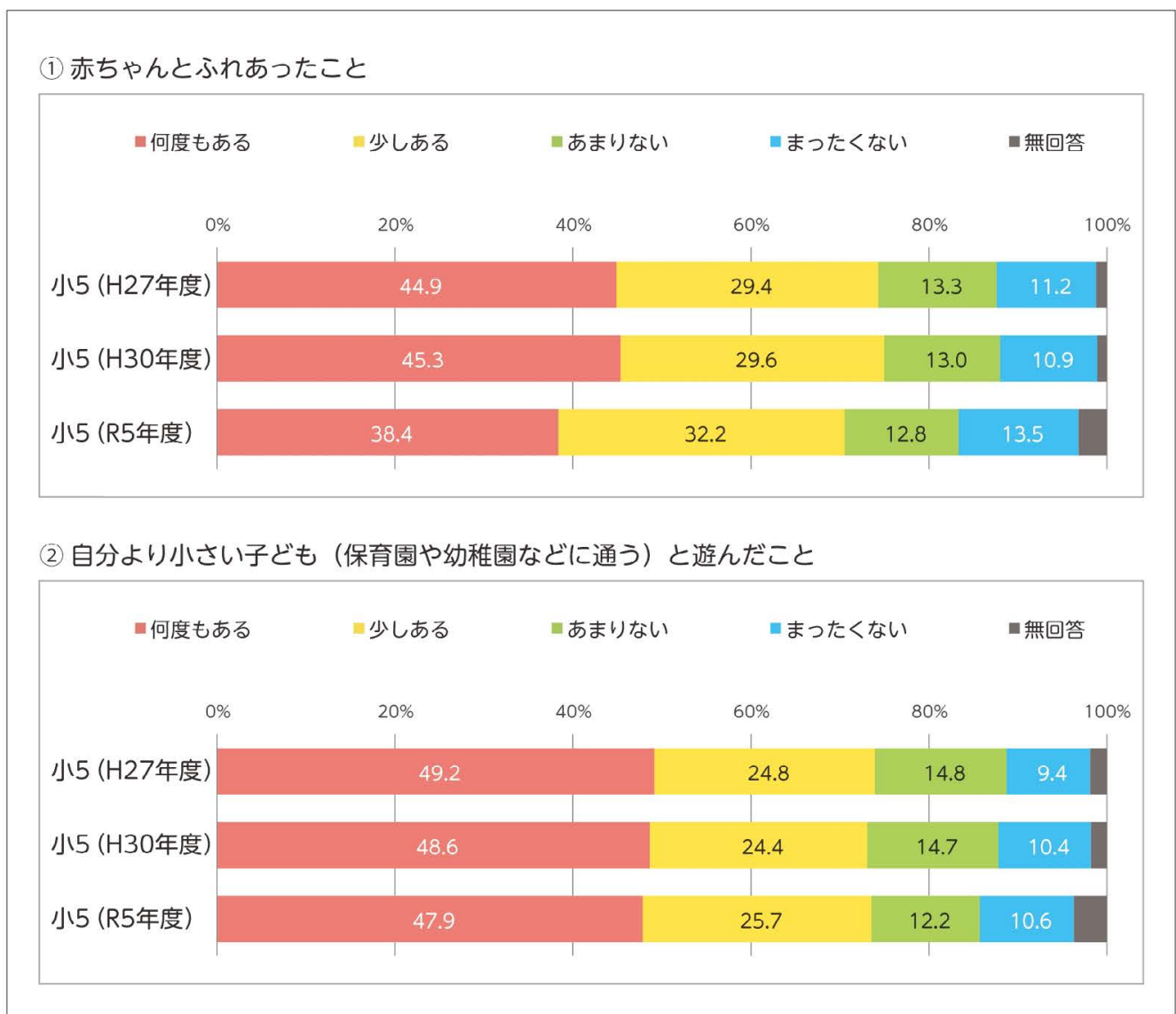
資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

小学生の体験機会は、「赤ちゃんともふれあったこと」、「家の人と一緒に地域の祭りや行事に参加したこと」の割合が減少

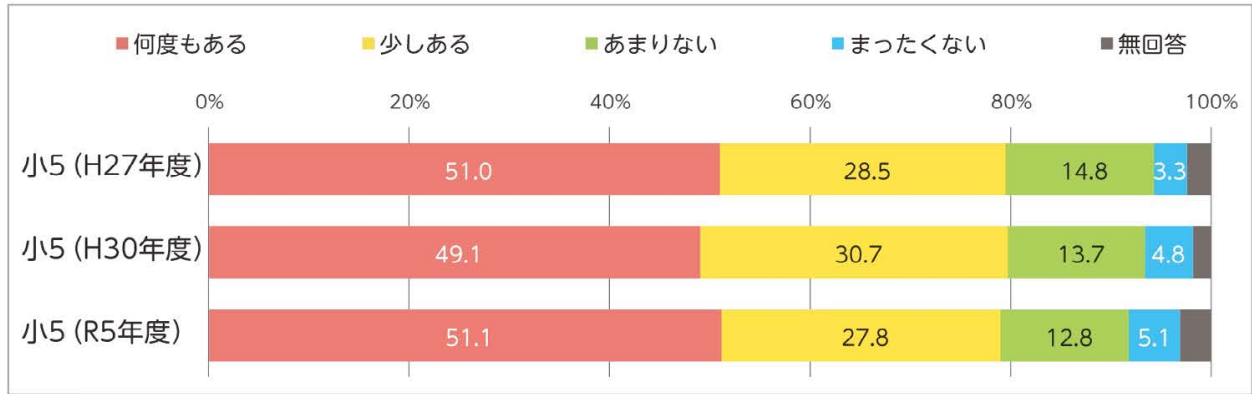
さまざまな体験機会について、「何度もある」または「少しある」と肯定的に答えた小学生の割合は、高い順に、「⑥家の人に勉強を教えてもらったこと」が86.7%、「⑤家の人と一緒に遊んだり、スポーツをしたりしたこと」が82.9%、「④家の人と一緒に地域の祭りや行事に参加したこと」が81.4%、「③山や森、川や海など、自然の中で遊んだこと」が78.9%、「②自分より小さい子ども（保育園や幼稚園などに通う）と遊んだこと」が73.6%、「①赤ちゃんともふれあったこと」が70.6%となっています。

コロナ禍前の平成30年度と比較すると、「①赤ちゃんともふれあったこと」、「④家の人と一緒に地域の祭りや行事に参加したこと」がそれぞれ4.3ポイント、3.9ポイント低くなっている一方、「⑤家の人と一緒に遊んだり、スポーツをしたりしたこと」が6.0ポイント高くなっています。また、「②自分より小さい子ども（保育園や幼稚園などに通う）と遊んだこと」、「③山や森、川や海など、自然の中で遊んだこと」、「⑥家の人に勉強を教えてもらったこと」についてはほぼ同じ状況です。

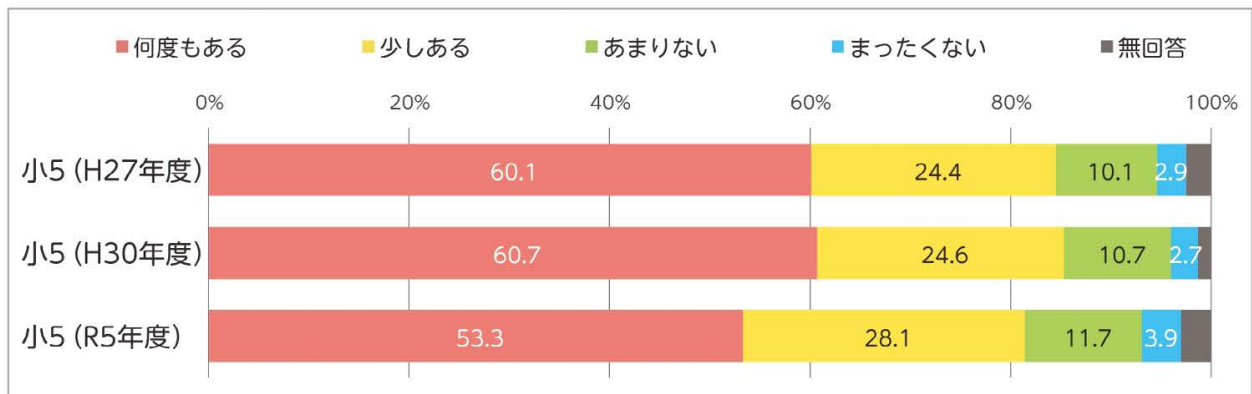
■ 図表87 あなたは、今までに、次のようなことをどのくらいしたことがありますか



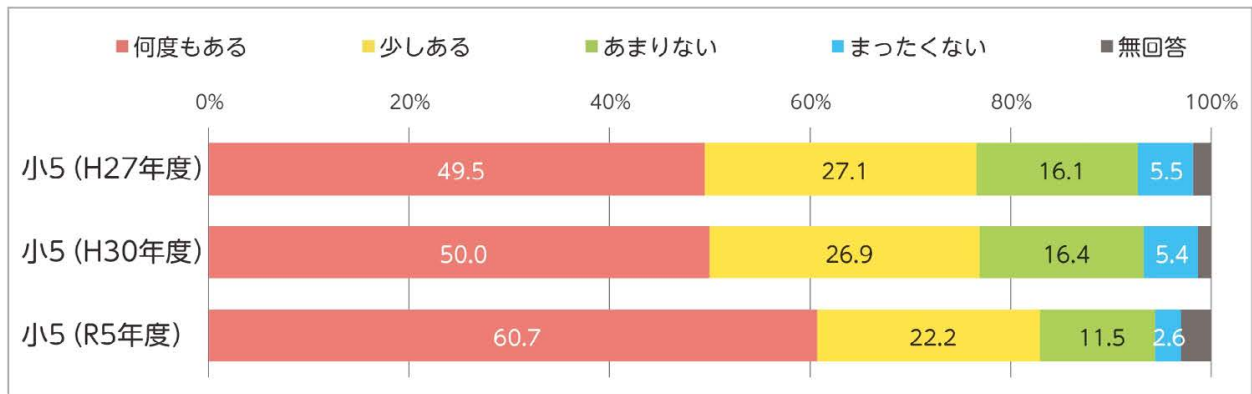
③ 山や森、川や海など、自然の中で遊んだこと



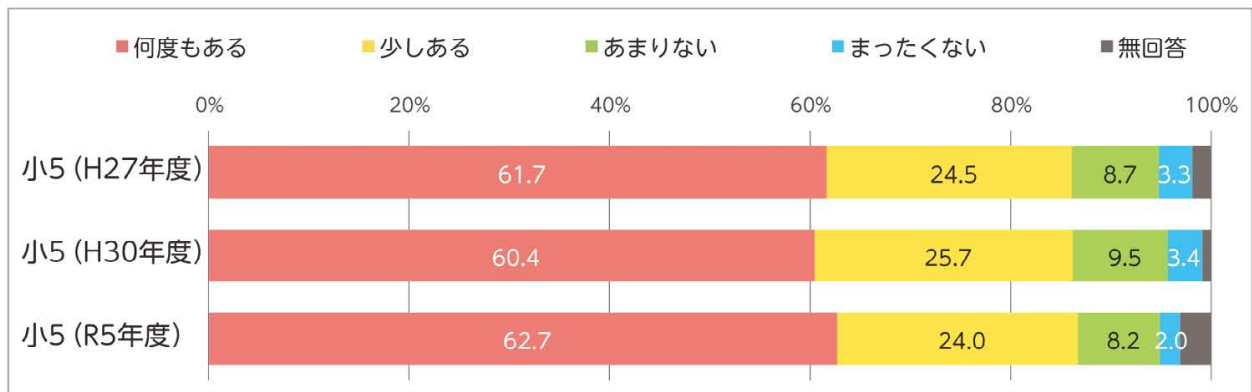
④ 家の人と一緒に地域の祭りや行事に参加したこと



⑤ 家の人と一緒に遊んだり、スポーツをしたりしたこと



⑥ 家の人に勉強を教えてもらったこと



資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

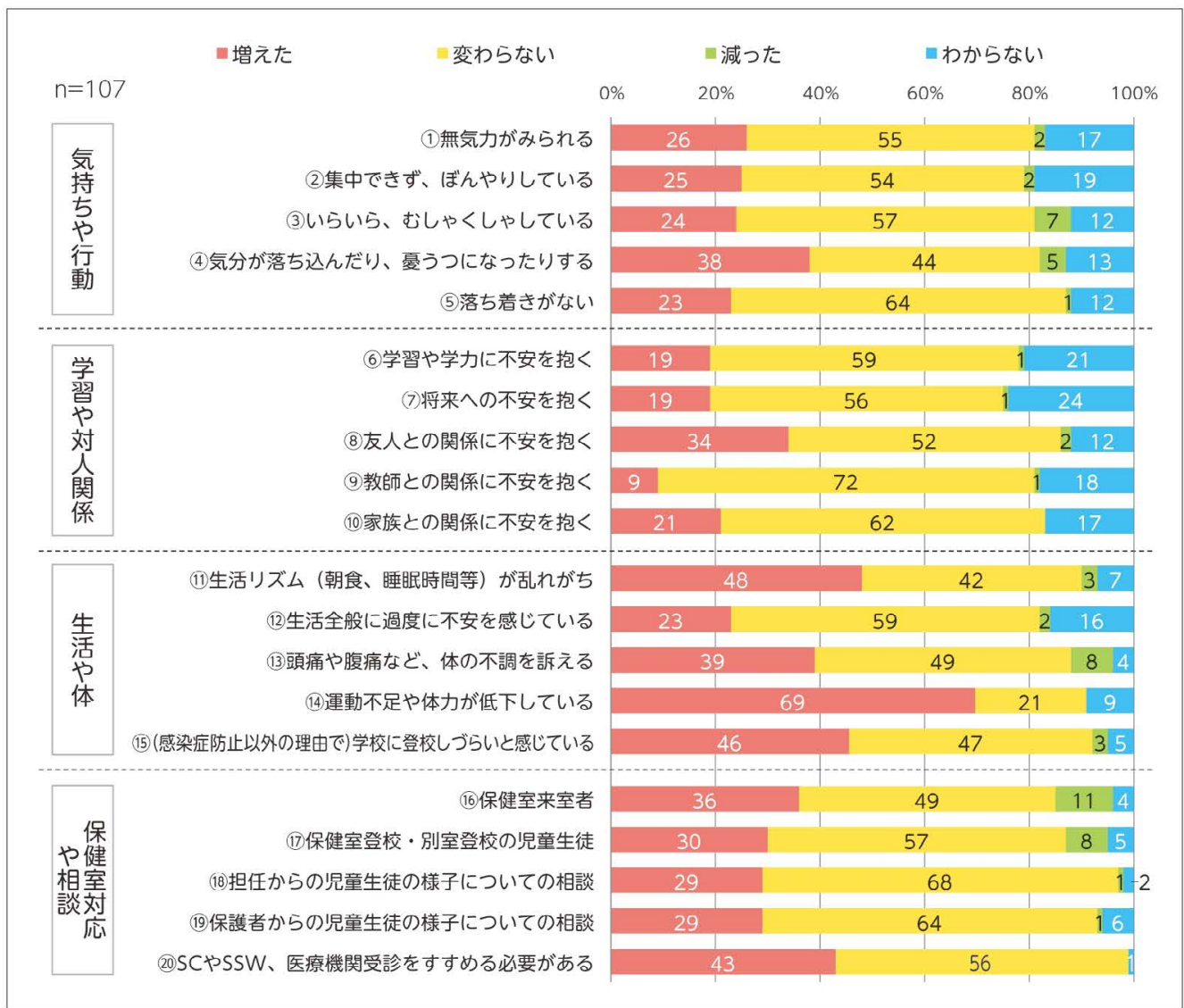
※「家の人と一緒に遊んだり、スポーツをしたりしたこと」は平成27年度、平成30年度は「家の人と一緒にスポーツをしたこと」

新型コロナウイルス感染症の影響と思われる児童生徒の変化について、養護教諭は「運動不足や体力が低下している」、スクールカウンセラーは「(感染症防止以外の理由で) 学校に登校しづらいと感じている」の割合が最も高い

「気持ちや行動」、「学習や対人関係」、「生活や体」、「保健室対応や相談」の4つのカテゴリに関する20項目について、養護教諭がコロナ禍前と現在を比較して児童生徒の変化をどのように感じているか質問したところ、カテゴリ別に増えた割合が最も高い項目は、「気持ちや行動」では「気分が落ち込んだり、憂うつになったりする」(38%)、「学習や対人関係」では「友人との関係に不安を抱く」(34%)、「生活や体」では「運動不足や体力が低下している」(69%)、「保健室対応や相談」では「SC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)、医療機関受診をすすめる必要がある」(43%)となっています。

また、14項目に絞って、スクールカウンセラーに質問したところ、カテゴリ別に増えた割合が最も高い項目は、「気持ちや行動」では「気分が落ち込んだり、憂うつになったりする」(49%)、「学習や対人関係」では「友人との関係に不安を抱く」(48%)、「生活」では「(感染症防止以外の理由で) 学校に登校しづらいと感じている」(55%)、「相談」では「担任からの児童生徒の様子についての相談」、「保護者からの児童生徒の様子についての相談」(それぞれ35%)となっています。

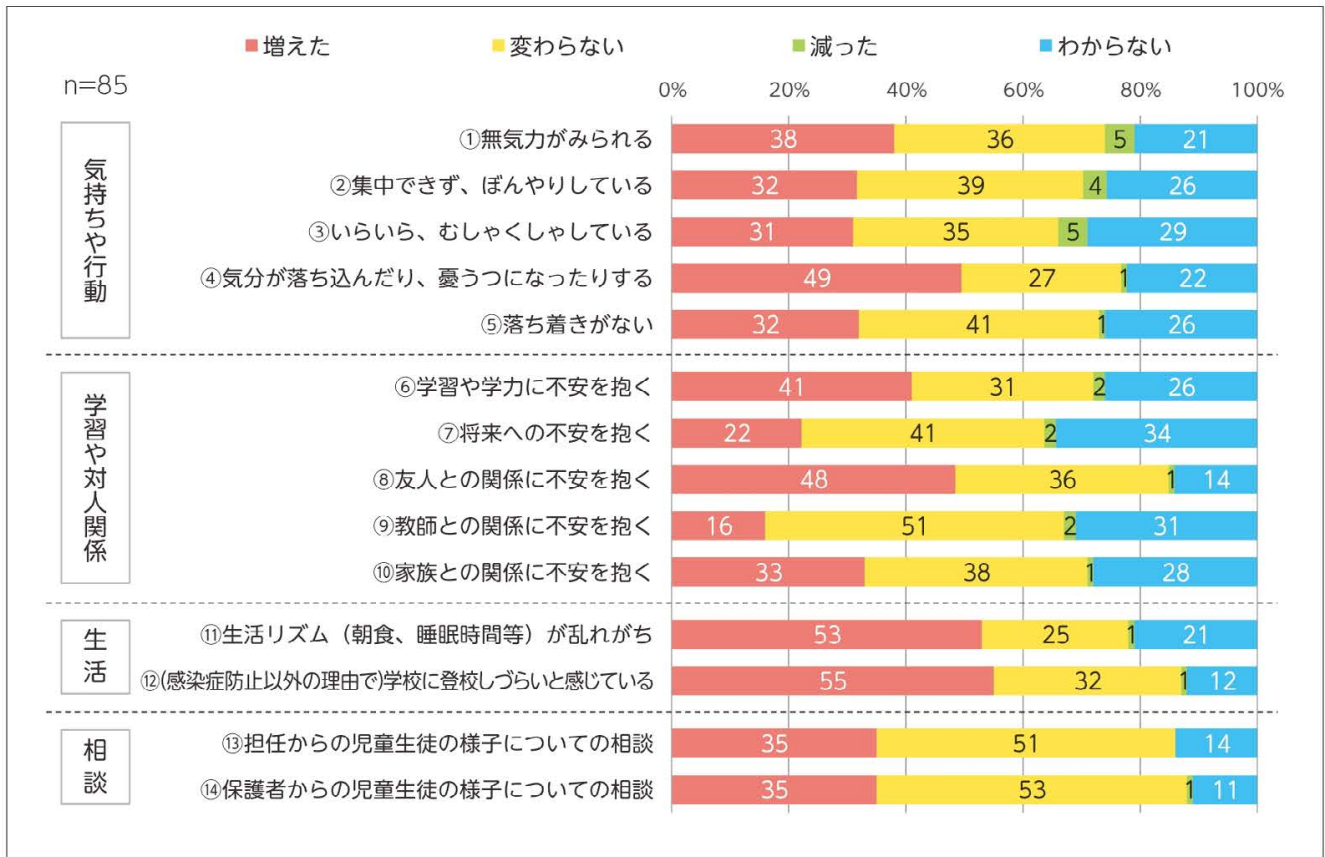
■図表88-1 令和5年度 コロナ禍前(令和元年以前)からの児童生徒の変化(養護教諭対象)



資料：三重県教育委員会

※調査対象は、令和元年度以前から現任校に勤務している養護教諭 107 人(小中学校配置 79 人、県立学校配置 28 人)

■ 図表88-2 令和5年度 コロナ禍前(令和元年以前)からの児童生徒の変化(スクールカウンセラー対象)



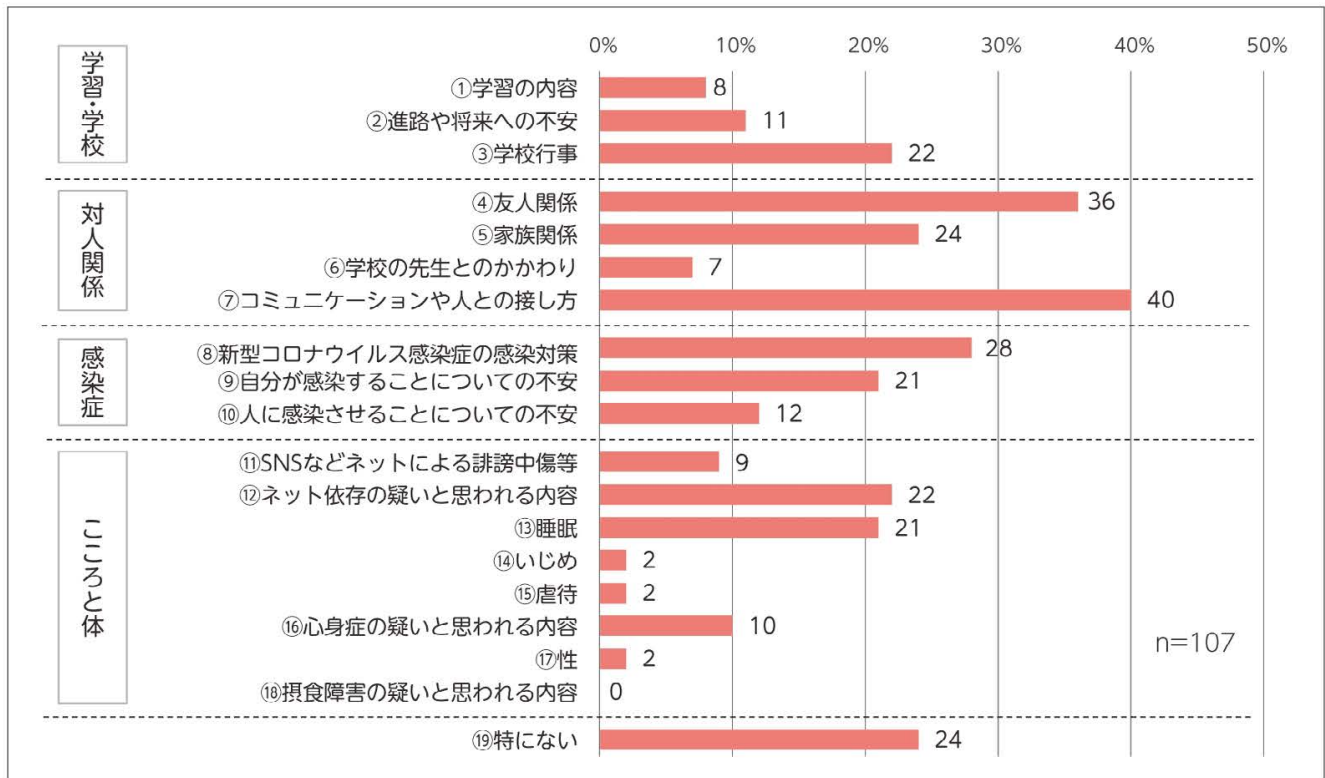
資料：三重県教育委員会

※調査対象は、令和元年度以前から同一校種の学校に配置されているスクールカウンセラー延べ85人(小中学校配置66人、県立学校配置19人)

新型コロナウイルス感染症の影響と思われる児童生徒からの相談は「コミュニケーションや人との接し方」の割合が最も高い

養護教諭が児童生徒から受けた相談の中で、「学習・学校」、「対人関係」、「感染症」、「こころと体」に関する4つのカテゴリに関する18項目について、養護教諭が新型コロナウイルス感染症の影響によって感じているもののうち、多いものを複数選択したところ、「コミュニケーションや人との接し方」の割合が40%で最も高く、次いで「友人関係」(36%)、「新型コロナウイルス感染症の感染対策」(28%)となっています。

■ 図表89 令和5年度 養護教諭が児童生徒から受けた新型コロナウイルス感染症の影響によると思われる相談(複数回答)



資料：三重県教育委員会

※調査対象は、令和元年度以前から現任校に勤務している養護教諭 107 人（小中学校配置 79 人、県立学校配置 28 人）